glial fiber, 一部の ganglion cell 類似の細胞で陽性. 68 kilodalton の neurofilament subunit protein (68-Kd NF) は少数の異型 ganglion cell と神経突起が弱陽性. 160-Kd NF は多数の大小種々の ganglion cell と神経突起が陽性. 200-Kd NF は神経突起と一部の異型 ganglion cell で陽性. NF triplet protein の陽性率は 160-Kd NF＞200-Kd NF＞68-Kd NF の順であった. glia の増生は reactive なものと考え, gangliocytoma と診断した.

〔討　論〕

藤澤浩四郎（東京都神経研） 腫瘍の主座は, 抄録によると「皮質下」とされているが, 今回拝見した標本の所見は「皮質内」と思われますがどうでしょうか.

組織像から異型のニューロンの存在は確かだが, ニューロンの数自体は成員密度から見て著しく増加しているとは思われない. 鍍銀標本や meurofilament subunit 免疫染色標本に見るニューロンの形態は畸型的であり, このような細胞が増殖過程にあるとは考えられない. 介在する膠細胞要素に腫瘍的増殖を疑わせる所見は乏しいように思う. 本例の病変は果して腫瘍でしようか.

中村　正（群大脳神経外科） 腫瘍が"皮質下"に存在していると申し上げたのは, 術中の macroscopic な位置関係をそう表現しました. 実際光顕的には腫瘍は皮質下に伸展しているわけではありません.

Gangliocytoma における成熟した ganglion cell が腫瘍性に増殖するかどうか, 我々は確かなコメントは持ちあわせておりません.

石田陽一（群大第1病理） Gangliocytoma は真の腫瘍ではなく, 組織奇形と考えています. mass として増大するのは ganglioneuroblastoma で, ノイロンへの分化がすすむ場合と, stroma のグリアが腫瘍性に増加する場合と, この例のようにリンパ球反応が強い場合が考えられます.

2) 悪性リンパ腫あるいは未分化膠細胞腫との鑑別が困難であった2剖検例

伊藤　誠, 佐野　健司, 発地　雅夫
信州大学第2病理

症例 1: 55才, 男性. 昭和58年4月より小脳症状が出現. 右小脳半球腫瘍の疑いで6月に昭和伊南総合病院脳外科にて腫瘍の亜全摘を施行. 組織診で悪性リンパ腫と診断され, 術後照射を行なった. しかし, 昭和60年4月より続発性水頭症となり, 次第に意識レベルも低下して, 同年12月18日に死亡した.

亜全摘時の腫瘍組織は, cIg 陽性のびまん性中細胞型悪性リンパ腫であった (Fig. 1a). 剖検時の脳は 1,550 g で, 著明な脳室の拡張がみられた. 腫瘍の肉眼的浸潤範囲は不明瞭で原発部も瘢痕化していた. 組織学的には, 腫瘍細胞は脳室辺縁を中心に脳梁, 両側の視床と基底核, 脳幹にかけて浸潤していた. これら再発部ではリンパ腫細胞が微小血管を取り囲むように増殖し, 一部では血管腔や血管内皮細胞が消失して基底膜様物質を中心にしたロゼットを形成していた (Fig. 1b).

症例 2: 34才, 男性. 昭和60年7月より頭痛, 構音障害, 計算障害, 右同名半盲が出現し, 脳腫瘍として8月末に信州大学脳外科に入院. 腫瘍は左大脳半球白質に広範な低吸収域を形成していた. ACNU の動注により著明な腫瘍の縮小がみられたため, 9月に stereotactic biopsy を施行したが, 悪性膠細胞腫の診断を得たため ACNU による化学療法を続行した. 12月に亜全摘を行なったが, 腫瘍は急速に増大し両側大脳半球に進展し, 脳圧亢進症状も著明となって, 昭和61年3月16日に死亡した.

亜全摘時の組織は, 大型で異型に富んだ細胞がびまん性増殖を示しており, 免疫組織学的に GFAP 陰性, LCA 陽性であることより, びまん性大細胞型の悪性リンパ腫と結論された (Fig. 2). 剖検時の脳は 1,500g で, 腫瘍は両側側頭葉から側脳室, 第3脳室にかけて広範に浸潤し, 大部分は壊死に陥っていた. 組織学的にはリンパ腫細胞のびまん性増殖が主体であったが, 一部には症例1のようなロゼット状構造も少数認められた.

〔討　論〕

石田陽一（群大第1病理） 1, 2例とも malignant lymphoma と思います. satellite structure は珍しいものですが, 中に内皮や基底膜のみられるものもあるので perivascular growth pattern が capillary にちかい細い血管レベルまで及んだためと考えます.

熊西敏郎（新大脳研神経病理） これ程多数の satellite structure のみられる例を経験したことがありませんの

で大変興味深く拝見致しました．特に中心野がLCA陽性であることは何を意味するのか，更に検討してその結果を教えていただければ幸いです．

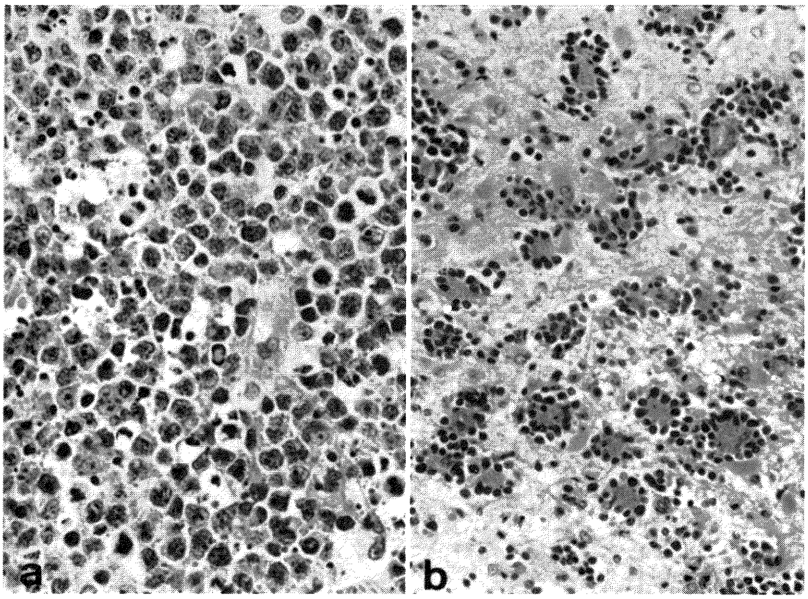

Fig. 1 a）びまん性増殖を示す中細胞型リンパ腫細胞（×100, H.E.）.
b）微小血管を中心にしたロゼット状増殖巣（×50, H.E.）.

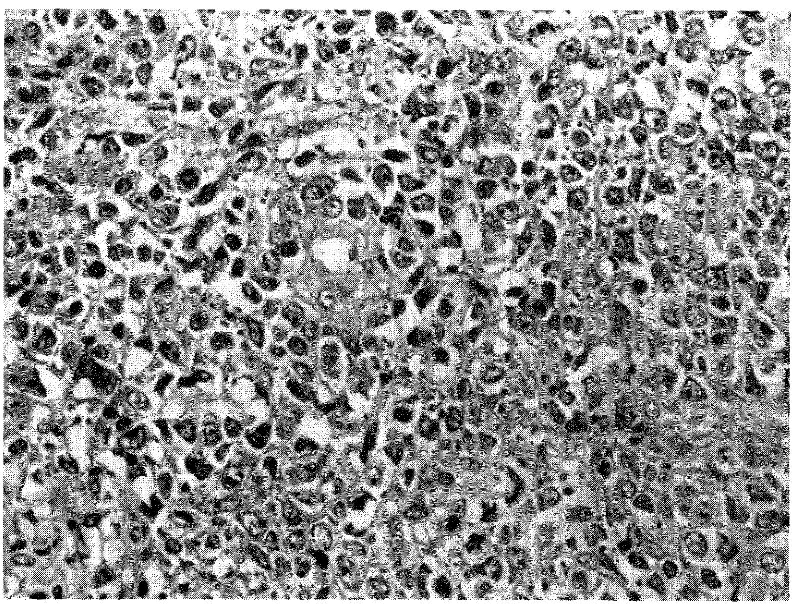

Fig. 2 びまん性増殖を示す大細胞型リンパ腫細胞（×100, H.E.）.